

Q1-10. 現在確認している震災孤児／女兒・中学生

Q1-1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	5 2.8	175 97.2	2.2	0	4	1.5	11 100.0
いる	9 100.0	5 55.6	4 44.4	2.2	0	4	1.5	11 100.0
いない	164 100.0	-	164 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q1-11. 現在確認している震災孤児／女兒・中卒

Q1-1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	5 2.8	175 97.2	6.8	1	24	8.6	34 100.0
いる	9 100.0	5 55.6	4 44.4	6.8	1	24	8.6	34 100.0
いない	164 100.0	-	164 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	いる	いない	無回答
合計	180 100.0	8 4.4	165 91.7	7 3.9

Q2-2. 現在確認している震災遺児／人数

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	6 3.3	174 96.7	95.0	2	254	87.5	572 100.0
いる	8 100.0	6 75.0	2 25.0	95.0	2	254	87.5	570 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-3. 現在確認している震災遺児／世帯数

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	6 3.3	174 96.7	61.2	1	164	56.1	367 100.0
いる	8 100.0	6 75.0	2 25.0	61.2	1	164	56.1	367 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-4. 現在確認している震災遺児／男児・就学前

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	4 2.2	176 97.8	10.3	6	18	4.7	41 100.0
いる	8 100.0	4 50.0	4 50.0	10.3	6	18	4.7	41 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-5. 現在確認している震災遺児／男児・小学生

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	4 2.2	176 97.8	18.3	5	27	8.3	73 100.0
いる	8 100.0	4 50.0	4 50.0	18.3	5	27	8.3	73 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-6. 現在確認している震災遺児／男児・中学生

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	5 2.8	175 97.2	12.2	1	23	8.3	61 100.0
いる	8 100.0	5 62.5	3 37.5	12.2	1	23	8.3	61 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-7. 現在確認している震災遺児／男児・中卒

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	6 3.3	174 96.7	21.0	1	66	21.9	126 100.0
いる	8 100.0	6 75.0	2 25.0	21.0	1	66	21.9	126 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-8. 現在確認している震災遺児／女兒・就学前

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	6 3.3	174 96.7	4.8	1	9	3.2	29 100.0
いる	8 100.0	6 75.0	2 25.0	4.8	1	9	3.2	29 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-9. 現在確認している震災遺児／女兒・小学生

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	5 2.8	175 97.2	16.6	2	36	12.2	83 100.0
いる	8 100.0	5 62.5	3 37.5	16.6	2	36	12.2	83 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-10. 現在確認している震災遺児／女兒・中学生

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	4 2.2	176 97.8	14.0	4	21	7.0	56 100.0
いる	8 100.0	4 50.0	4 50.0	14.0	4	21	7.0	56 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q2-11. 現在確認している震災遺児／女児・中卒

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	4 2.2	176 97.8	25.8	12	62	21.0	103 100.0
いる	8 100.0	4 50.0	4 50.0	25.8	12	62	21.0	103 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q3-1. 震災孤児の現在の居場所／親族宅

Q1-1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	9 5.0	171 95.0	9.1	1	36	11.0	82 100.0
いる	9 100.0	9 100.0	-	9.1	1	36	11.0	82 100.0
いない	164 100.0	-	164 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q3-2. 震災孤児の現在の居場所／親族里親（親族宅）

Q3-1. 震災孤児の現在の居場所／親族宅...有効回答

Q1-1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	9 100.0	9 100.0	-	4.6	1	15	4.7	41 100.0
いる	9 100.0	9 100.0	-	4.6	1	15	4.7	41 100.0
いない	-	-	-	-	-	-	-	- -

Q3-3. 震災孤児の現在の居場所／知人宅

Q1-1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	2 1.1	178 98.9	0.5	0	1	0.5	1 100.0
いる	9 100.0	2 22.2	7 77.8	0.5	0	1	0.5	1 100.0
いない	164 100.0	-	164 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q3-4. 震災孤児の現在の居場所／施設

Q1-1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	3 1.7	177 98.3	2.0	0	4	1.6	6 100.0
いる	9 100.0	3 33.3	6 66.7	2.0	0	4	1.6	6 100.0
いない	164 100.0	-	164 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q3-5. 震災孤児の現在の居場所／養育里親

Q1-1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	5 2.8	175 97.2	7.2	1	19	6.2	36 100.0
いる	9 100.0	5 55.6	4 44.4	7.2	1	19	6.2	36 100.0
いない	164 100.0	-	164 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q3-6. 震災孤児の現在の居場所/その他

	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
Q1-1. 現在確認している震災孤児/管内の状況								
合計	180 100.0	4 2.2	176 97.8	1.8	0	4	1.5	7 100.0
いる	9 100.0	4 44.4	5 55.6	1.8	0	4	1.5	7 100.0
いない	164 100.0	-	164 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q4-1. 震災遺児の現在の居場所/親元

	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
Q2-1. 現在確認している震災遺児/管内の状況								
合計	180 100.0	6 3.3	174 96.7	82.2	1	199	73.3	493 100.0
いる	8 100.0	6 75.0	2 25.0	82.2	1	199	73.3	493 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q4-2. 震災遺児の現在の居場所/親族宅

	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
Q2-1. 現在確認している震災遺児/管内の状況								
合計	180 100.0	3 1.7	177 98.3	20.0	3	53	23.3	60 100.0
いる	8 100.0	3 37.5	5 62.5	20.0	3	53	23.3	60 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q 4 - 3. 震災遺児の現在の居場所／親族里親（親族宅）

Q 4 - 2. 震災遺児の現在の居場所／親族宅...有効回答

Q 2 - 1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0.0	0	0	0.0	0 -
いる	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0.0	0	0	0.0	0 -
いない	-	-	-	-	-	-	-	- -

Q 4 - 4. 震災遺児の現在の居場所／知人宅

Q 2 - 1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	2 1.1	178 98.9	0.0	0	0	0.0	0 -
いる	8 100.0	2 25.0	6 75.0	0.0	0	0	0.0	0 -
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 -

Q 4 - 5. 震災遺児の現在の居場所／施設

Q 2 - 1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	4 2.2	176 97.8	1.3	0	3	1.1	5 100.0
いる	8 100.0	4 50.0	4 50.0	1.3	0	3	1.1	5 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q4-6. 震災遺児の現在の居場所／養育里親

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	3 1.7	177 98.3	0.3	0	1	0.5	1 100.0
いる	8 100.0	3 37.5	5 62.5	0.3	0	1	0.5	1 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q4-7. 震災遺児の現在の居場所／その他

Q2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	有効回答	無回答	平均	最小値	最大値	標準偏差	実数合計
合計	180 100.0	3 1.7	177 98.3	4.3	0	12	5.4	13 100.0
いる	8 100.0	3 37.5	5 62.5	4.3	0	12	5.4	13 100.0
いない	165 100.0	-	165 100.0	0.0	0	0	0.0	0 0.0

Q5. 震災孤児の状況把握について

Q1-1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	管内状況は把握している	親族は確認して定例的に	課題は把握していない	気がない	無回答
合計	180 100.0	3 1.7	6 3.3	48 26.7	28 15.6	95 52.8
いる	9 100.0	3 33.3	6 66.7	-	-	-
いない	164 100.0	-	-	48 29.3	26 15.9	90 54.9

Q 6. 震災孤児の状況把握の方法

Q 1 - 1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	子ども本人に直接面接	養育者に直接面接	事例により子どもとみ接触	関係者からの間接的な聞き取りが中心	町里親会や要対協、市	無回答
合計	180 100.0	5 2.8	5 2.8	10 5.6	29 16.1	23 12.8	110 61.1
いる	9 100.0	4 44.4	4 44.4	2 22.2	1 11.1	-	-
いない	164 100.0	1 0.6	1 0.6	8 4.9	28 17.1	23 14.0	103 62.8

Q 7. 震災遺児の状況把握について

Q 2 - 1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	状況把握している管内の定期的震災に孤	して定期的に事例は確認	把握しあれないばいつ随時状況課	てが、いなる事例はあ	無回答
合計	180 100.0	3 1.7	-	49 27.2	30 16.7	98 54.4
いる	8 100.0	3 37.5	-	3 37.5	2 25.0	-
いない	165 100.0	-	-	46 27.9	26 15.8	93 56.4

Q 8. 震災遺児の状況把握の方法

Q 2 - 1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	子ども本人に直接面接	養育者に直接面接	事例により子どもとみ接触	関係者からの間接的な聞き取りが中心	町里親会や要対協、市	無回答
合計	180 100.0	4 2.2	2 1.1	9 5.0	31 17.2	23 12.8	111 61.7
いる	8 100.0	2 25.0	-	1 12.5	4 50.0	1 12.5	-
いない	165 100.0	2 1.2	2 1.2	8 4.8	27 16.4	22 13.3	104 63.0

Q 9. 震災孤児・遺児についての個別相談支援状況

Q 1 - 1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	相談支援事例はこれまでに無い	相談支援事例は過去にあったが最終は過去	現在相談支援事例あり	無回答
合計	180 100.0	138 76.7	11 6.1	10 5.6	21 11.7
いる	9 100.0	-	2 22.2	7 77.8	-
いない	164 100.0	133 81.1	9 5.5	2 1.2	20 12.2

Q 1 0. 震災遺児・孤児の相談種別

Q 9. 震災孤児・遺児についての個別相談支援状況...現在相談支援事例あり

Q 1 - 1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	養護相談	養護相談（虐待）	性格行動相談	非行相談	健全育成相談	障害相談	その他	無回答
合計	10 100.0	9 90.0	3 30.0	5 50.0	-	2 20.0	1 10.0	-	-
いる	7 100.0	6 85.7	3 42.9	5 71.4	-	2 28.6	1 14.3	-	-
いない	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-

Q 1 1. 震災遺児・孤児の抱える主な問題

Q 9. 震災孤児・遺児についての個別相談支援状況...現在相談支援事例あり

Q 1 - 1. 現在確認している震災孤児／管内の状況	件数	本人の不調による問題	本人の被災以前からの問題	本人の被災以外の問題	本人の被災以降の生活に発生した問題	家族・親族と本人の関係に関する問題	その他の生活再建・問題	その他の問題	無回答
合計	10 100.0	2 20.0	1 10.0	3 30.0	5 50.0	7 70.0	3 30.0	1 10.0	-
いる	7 100.0	2 28.6	1 14.3	2 28.6	4 57.1	5 71.4	1 14.3	1 14.3	-
いない	2 100.0	-	-	1 50.0	-	1 50.0	2 100.0	-	-

Q 9. 震災孤児・遺児についての個別相談支援状況

Q 2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	今までに無い事例はこれ	相談支援事例はこれが終結	現在相談支援事例あり	無回答
合計	180 100.0	138 76.7	11 6.1	10 5.6	21 11.7
いる	8 100.0	-	1 12.5	7 87.5	-
いない	165 100.0	133 80.6	10 6.1	2 1.2	20 12.1

Q 10. 震災遺児・孤児の相談種別

Q 9. 震災孤児・遺児についての個別相談支援状況...現在相談支援事例あり

Q 2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	養護相談	養護相談（虐待）	性格行動相談	非行相談	健全育成相談	障害相談	その他	無回答
合計	10 100.0	9 90.0	3 30.0	5 50.0	-	2 20.0	1 10.0	-	-
いる	7 100.0	7 100.0	2 28.6	3 42.9	-	2 28.6	1 14.3	-	-
いない	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	-	-

Q 11. 震災遺児・孤児の抱える主な問題

Q 9. 震災孤児・遺児についての個別相談支援状況...現在相談支援事例あり

Q 2-1. 現在確認している震災遺児／管内の状況	件数	本人の不調による問題	本人の被災以前からの問題	本人の被災以外の問題	本人の被災以降に発生した生活の問題	家族・親族と本人の関係に関する問題	その他の生活再建・家族の問題	その他の問題	無回答
合計	10 100.0	2 20.0	1 10.0	3 30.0	5 50.0	7 70.0	3 30.0	1 10.0	-
いる	7 100.0	2 28.6	1 14.3	2 28.6	4 57.1	6 85.7	3 42.9	-	-
いない	2 100.0	-	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-

Q12. 管内の震災被災児（遺児・孤児以外）の在住状況

	件数	被災児が在住	以前は居たが今は転出し、管内にいない	被災児の存在は確認していない	無回答
合計	180 100.0	35 19.4	9 5.0	114 63.3	22 12.2

Q13. 震災被災児（遺児・孤児以外）の個別相談支援状況

	件数	まだ相談に無援事例はこれ	相談支援事例は過去に相談支援が終了	現在相談支援事例あり	無回答
合計	180 100.0	118 65.6	32 17.8	18 10.0	12 6.7

Q14. 震災被災児（遺児・孤児以外）の相談種別

Q13. 震災被災児（遺児・孤児以外）の個別相談支援状況...現在相談支援事例あり

	件数	養護相談	養護相談（虐待）	性格行動相談	非行相談	健全育成相談	障害相談	その他	無回答
合計	18 100.0	8 44.4	12 66.7	5 27.8	3 16.7	3 16.7	3 16.7	1 5.6	-

Q15. 震災被災児（遺児・孤児以外）の抱える主な問題

Q13. 震災被災児（遺児・孤児以外）の個別相談支援状況...現在相談支援事例あり

	件数	本人の不調による問題	本人の被災以前からの問題	本人の被災以外の問題	本人の被災以降の生活で新たに発生した問題	家族・親族と本人の関係に関する問題	その他の生活再建・家族問題	その他の問題	無回答
合計	18 100.0	3 16.7	8 44.4	9 50.0	8 44.4	14 77.8	5 27.8	1 5.6	-

Q16. 被災者・被災児への個別相談以外の支援事業実施

	件数	なし	あり	無回答
合計	180 100.0	152 84.4	11 6.1	17 9.4

Q17 支援課題 の自由記述
・心のケア ・将来設計
・心理的ケア ・経済的支援 ・学校等含めた生活環境の整備。
・震災関連里親の高齢化、疲労の問題(長期化のため)。 ・支援に対する抵抗感(孤児・遺児として見られることを嫌う)。 ・子どものグリーフケア(現状では顕在化していないが)。
・長期に安定した養育環境の確保。
・被災した子どもやその家族が地域になじみにくく、近隣とトラブルを起している事例を把握している。そのことから、地域になじむことができやすくなるような世話人(世話をする家族)と世話人の相談を受ける人的体制の整備を重視すべきだと思われる。
・生活環境の整備。 ・相談支援窓口、体制の充実。
・被災者・被災した子どもに対する心理的ケア。
・現在、被災児童についての組織的な把握の方法がなく、まずそのことについて整備する必要があります。
・施設で被災し、家庭復帰した子の心のケア
・心のケア
子ども、それぞれの育ちに応じた支援方法の構築。
・生活および心理面のニーズの把握とそれに見合った具体的支援策
家庭生活、学校生活等生活面を復旧させること。
ニーズに応じた支援へ繋げる体制。
・生活環境(安心できる住居、経済面、就労など)の支援。 ・児童の心理的ケア。
・被災経験に対する心理的ケア ・被災者及び被災した子どもに対する支援に関する情報提供
通常の子童相談業務の中で対応できていると考えているため、被災者や被災児童からの児童相談に特別に対応することは考えていない。したがって現在のところ特に支援課題は持っていない。

# 東日本大震災に被災した子どもへの児童相談所による支援状況についての調査

回答機関名			自治体名		
回答者	所属部署・課・係				
	氏名				
連絡先：電話			e-mail		

以下の各問について、当てはまる数字に○ 該当がある場合には把握している人数をご記入ください

Q1 管内で現在確認している震災孤児 平成26年12月1日現在	1. いる		2. いない		名	世帯
	学年	就学前	小学生	中学生	中卒	
	男	名	名	名	名	名
	女	名	名	名	名	名
Q2 管内で現在確認している震災遺児 平成26年12月1日現在	1. いる		2. いない		名	世帯
	学年	就学前	小学生	中学生	中卒	
	男	名	名	名	名	名
	女	名	名	名	名	名
Q3 震災孤児の現在の居場所 平成26年12月1日現在	親族宅	名	知人宅	名	施設	名
	うち親族里親	名	養育里親	名	その他	名
Q4 震災遺児の現在の居場所 平成26年12月1日現在	親元	名				
	親族宅	名	知人宅	名	施設	名
	うち親族里親	名	養育里親	名	その他	名

以下の各問について 当てはまる数字に○印をつけてください（平成26年12月1日現在の状況）

Q5. 震災孤児の状況把握について

- 管内の震災孤児についてはすべて定期的に状況把握している
- 管内の震災孤児で親族里親事例はすべて定期的に状況確認している 他は随時必要に応じて把握
- いずれについても課題があれば随時状況把握している
- 気になる事例はあるが、ほとんど把握できていない 相談の必要あれば当事者から接触する

Q6. 震災孤児の状況把握の方法

- 子ども本人に直接面接
- 養育者に直接面接
- 事例によっては子ども本人に接触するが大半は養育者とのみ接触
- 関係者からの間接的な聴き取りが中心
- 里親会や要対協、市町村の対応をモニターしている

Q7. 震災遺児の状況把握について

- 全ての管内の震災遺児について定期的に状況把握している
- 管内の震災遺児で気になる事例はすべて定期的に状況確認している 他は随時必要に応じて把握
- いずれについても課題があれば随時状況把握している
- 気になる事例はあるが、ほとんど把握していない 相談の必要あれば当事者から接触する

調査はこれだけです。ご苦勞様でした。ありがとうございました。

## 東日本大震災に被災した子どもへの児童相談所による支援状況についての調査

### Q8. 震災遺児の状況把握の方法

1. 子ども本人に直接面接
2. 養育者に直接面接
3. 事例によっては子ども本人に接触するが大半は養育者とのみ接触
4. 関係者からの間接的な聴き取りが中心
5. 里親会や要対協、市町村の対応をモニターしている

### Q9. 震災孤児・遺児についての個別相談支援状況

1. 相談支援事例はこれまで無い
2. 相談支援事例は過去にあったが終結
3. 現在相談支援事例あり

### Q10. Q9で3.と答えた方にお訊ねします。相談種別は何ですか（複数回答可）

1. 養護相談
2. 養護相談(虐待)
3. 性格行動相談
4. 非行相談
5. 健全育成相談
6. 障害相談

7. その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

### Q11. Q9で3.と答えた方にお訊ねします。主な問題は何ですか（複数回答可）

1. 本人の被災による問題・不調(トラウマ PTSD その他)
2. 本人の被災以前からの問題(被災と重複も)
3. 本人の被災以外の問題
4. 本人の被災以降の生活で新たに発生した問題
5. 家族・親族と本人の関係に関する問題
6. その他の生活再建・家族問題
7. その他の問題

### Q12. 管内に震災被災児(遺児・孤児以外)は在住していますか 平成26年12月1日現在

1. 被災児が在住
2. 以前は居たが今は転出していない
3. 被災児の存在は確認していない

### Q13. 震災被災児(遺児・孤児以外)の個別相談支援状況 平成26年12月1日現在

1. 相談支援事例はこれまで無い
2. 相談支援事例は過去にあったが終結
3. 現在相談支援事例あり

### Q14. Q13で3と答えた方にお訊ねします 相談種別は何ですか（複数回答可）

1. 養護相談
2. 養護相談(虐待)
3. 性格行動相談
4. 非行相談
5. 健全育成相談
6. 障害相談

7. その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

### Q15. Q13で3と答えた方にお訊ねします 主な問題は何ですか（複数回答可）

1. 本人の被災による問題・不調(トラウマ PTSD その他)
2. 本人の被災以前からの問題(被災と重複も)
3. 本人の被災以外の問題
4. 本人の被災以降の生活で新たに発生した問題
5. 家族・親族と本人の関係に関する問題
6. その他の生活再建・家族問題
7. その他の問題

### Q16. 被災者・被災した子どもへの個別相談以外の支援事業を実施したことがありますか

1. なし
2. あり(具体的に \_\_\_\_\_ )

### Q17. 被災者・被災した子どもへの現時点での支援課題として何を重視すべきでしょうか（箇条書きに）



調査はこれだけです。ご苦勞様でした。ありがとうございました。

（研究代表者 五十嵐 隆）

## 分担研究報告書

被災後の避難の状況と避難児と家族のニーズに関する研究、および  
被災孤児の親族里親委託と支援に関する研究（分担研究者 山本恒雄）

### その 3. 被災後の保育再開に求められる支援体制整備に関する研究 —保育所のニーズに即した外部支援のあり方—

研究分担者 山本 恒雄（日本子ども家庭総合研究所 子ども家庭福祉研究部長）

研究協力者 岩田力（東京家政大学）須永美紀（立教女学院短期大学）尾木まり（子どもの領域研究所）

齊藤多江子（こども教育宝仙大学）高辻千恵（東京家政大学）小山修（日本子ども家庭総合研究所）増田まゆみ（東京家政大学）網野武博（東京家政大学）

#### 【研究要旨】

本研究の目的は、東日本大震災により被災した保育所の保育再開から現在までの実態を調査することを通して、災害後の速やかな保育再開に必要とされる国や地方自治体の保育体制整備の在り方を検討するための基礎資料を得ることである。今年度は、昨年度実施した保育所調査の結果をふまえて、支援を受けた保育所側と支援を行った保育団体および行政（地方自治体・国）側の双方を対象に、支援の実態と内容・方法等に関するインタビュー調査を実施した。被災した保育所のニーズに即した支援のあり方を探る観点からインタビュー内容を分析・考察した結果、被災後に「これまでとかわらない生活」を子どもと保護者がともに感じることでできる場所としての保育所の意義と、そのために保育者が行っている配慮や取り組みの実際例が改めて示された。一方、被災者側のニーズと実際の支援内容の間には様々なズレが生じる場合もあること、またそうしたズレがもたらす保育者や子どもへの負担といった課題があることが明らかとなった。さらに、被災後の保育再開や仮設園舎を含めた新園舎再建に至る経緯において支援する側からのアプローチや情報提供が積極的に行われることの重要性や、公助・自助のみでは限界がある中で非常に有効となる民間団体の支援をより活用するために、これらの支援の記録やデータベース化をすすめる必要性が示唆された。

#### I 目的

昨年度、本研究班で実施した「東日本大震災被災児童・避難児童に対する支援の総合的研究—災害後の保育再開に必要とされる保育体制整備に関する研究—」において、東日本大震災により園舎が流失・損壊した地域（岩手県、宮城県）における、保育所の保育再開から現在までの実態についてのインタビュー調査を行った。

その結果、特に困難だったとされたのは、保育再開場所の確保と新（仮設）園舎再建であった。一方で、被災後の混乱の中であって、保育所が子どもにとっては安心・安全な生活を保障する場所であり、保護者にとっては生活や子育ての不安を軽減できる場として機能していたことが明らかになった。この結果は、通常時とは異なるさまざまな形態での保育再開であったにもかかわらず、保育所の持つ保育機能が発揮されていたことを

示すものであると考えられる。この保育機能が発

揮されるためには、保育の場所を迅速に確保することが前提となっており、保育の場所の確保、再開に向けての積極的な支援が望まれる。また、震災後の混乱の中、保育所自らが必要な情報を入手して動くことは難しい状況であり、外部支援が重要な役割を果たしていたことが明らかとなった。

これらの結果を受け、今後同様の災害が起こった際に備えて国や地方自治体に検討が求められるポイントとして、①保育の再開場所の確保とともに、保育所単位の保育が迅速に再開できるような支援を行うための対策、②仮設園舎等の建設が既存の法律によって阻まれることがないような弾力性、応用力のある運用のしくみ、③支援に関する情報の収集や提供、被災した側のニーズと支援とのマッチングを行うような支援窓口の設定、④同様の災害が起こった際に利用可能な支援団体と支援内容に関する事例のデータベース化、以上の4点を提案した。

昨年度の調査対象となった保育所は、いずれも現在までに園舎の再建を果たしている、または再建の見通しが立っていた。本年度研究では、現在でも園舎再建に至っていない保育所における保育再開時の保育体制等の状況やこれまでの支援の実態を含め、現在までの経緯について追加的に検討することとした。

また、本年度は、自治体や保育団体等の支援を提供した側に対する調査を行うことにより、支援体制・内容や支援のプロセスを分析・検討する。

本研究では、支援を受けた保育所側と支援を行った側の双方から、支援の実態と内容・方法等を調査することを通して、被災した保育所のニーズに即した支援のあり方を検討することを目的とし、その研究成果を、今後災害が生じた場合、保育所の保育機能を速やかに回復し保育の再開を実現するための保育体制整備に活かしたいと考える。

## II 方法

## 1 インタビュー調査

### (1) 調査対象

#### ①保育所

新園舎再建までに特に時間を要した保育所5か所を選定し、インタビュー調査への協力依頼を行った。協力が得られた1か所(表1)を対象にインタビューを行った。保育実施場所の確保や移転の経緯、時間の経過に伴う保育形態等の変化、外部支援を受けることになった経緯や支援内容等について聞き取りをした。

#### ②保育団体・地方自治体・国

県レベルの保育団体2か所および2地方自治体(1市, 1県)に対して、保育再開への支援体制、支援内容や方法の他、本研究班で昨年行った提案への意見についてインタビュー調査を行った。国に対しては、震災当時の担当課員に保育団体、地方自治体から得た意見について、コメントをもらう形でインタビューを行った。また、昨年度調査における1市へのインタビュー調査の結果も併せて分析した。インタビューの項目については、表2の通りである。

表1 インタビュー対象保育所の概要

	H
施設種別	民間保育所
市町村の人口規模・被災状況	17,000人 津波被害
被災当時の在籍児数	78名
園舎の被災状況	全壊
保育再開時の児童数	10名
保育再開の状況	2011年4月1日 閉園が決まっていた私立幼稚園で保育再開。 2011年5月中旬 調理室設置 2015年4月 新設園舎に移動予定。
調査時の在籍児数	定員60名

表2 地方自治体・保育団体への質問項目

- ① 震災後、保育再開への支援として、貴県（市・保育団体）ではどのような役割を担ったか。
- ② 支援する対象や支援内容はどのように決定したか。
- ③ 昨年度の本研究では今後の災害に備えて検討が求められるポイント4点を提案したが、どのように思うか。このような対応をとるためにはどのような課題があると思うか。
- ④ その他

## （2）調査時期

2014年11月～2015年2月

## （3）調査方法

調査に先立ち、保育所に対しては、保育再開から現在までの保育実施場所ごとの実態についてたずねるプレ・インタビューシートを送付した。保育団体・地方自治体・国については、質問項目を事前に送付した。

プレ・インタビューシートもしくは質問項目に基づき、半構造化インタビューを実施した。調査協力者の許可を得てICレコーダーに記録した。

調査は、調査者が2名以上で出向き、施設長、代表者、自治体担当者等にインタビューを行った。分析においては、録音された音声データの逐語記録を作成し、質問の視点ごとに整理し、目的に照らし考察を行った。

## （4）倫理上の配慮

日本子ども家庭総合研究所の倫理審査委員会による承認を受けた。調査時には、協力者の負担がないよう、質問の仕方などに十分配慮し、協力者が答えたくない質問には答える必要がない旨を伝えた。また、分析時には、インタビュー内容に関する印刷物の取り扱いには十分に注意し、共同研究者同士の情報共有の際にも、協力者へのプライバシーに配慮した。

# Ⅲ 結果

## 1 保育所へのインタビューの分析

昨年度は、宮城県、岩手県の7か所の保育所等についてインタビューを実施した。今年度のインタビュー結果についても、その際の分析項目に沿って分析を行った。

### （1）被災後の安否確認、保護者との連絡

園舎本体は残ったものの、全壊で使用できない状況だった。震災後、10日間ほどして、電話がつながるようになったので、全家庭に電話をかけ、安否確認を行った。この時、一部の保護者からの保育再開への希望が強くあった。

### （2）保育再開まで（被災当初）

避難した保健福祉センターで4日間過ごした。建物の2階が市役所の施設だったため、避難したその日から市の担当課の職員と接触できた。避難所から解散した後、担当課に通い、保育再開場所の相談をした。

保育を再開した場所は、震災以前より閉園予定だった幼稚園であった。昨年度調査では、民間保育所のほとんどが自ら保育再開場所を探し、確保していたが、ここでは、市の職員と法人と一緒に土地の持ち主に交渉し、4月1日からの保育再開が可能になった。

### （3）保育環境（保育の再開場所、保育形態等）

再開場所は元の保育所から約6キロ離れた場所であったために、子どもたちの通園時間は長くなった。

他の場所で被災した子どもも数名入園してきた。保育再開直後は子どもの数に対して保育士の人数が多かったため、4・5月は送られてきた支援物資等の整理や片付けを中心に行う職員もいた。4つの保育室のうち、一つは支援物資の保管場所となり使えない状態だった。

5月頃から、低年齢児が戻ってきた。幼稚園にあった茶道用に畳敷きとなっている部屋を保育に使用した。ベッドなどは保育団体からもらった。

#### ○ 保育教材

再開場所が幼稚園だったことから、足りないものは少なかった。保育団体からの支援で保育教材